森林セラピー通信

森のたより

（一社）飯南町観光協会
☎76-9050

「ふるさとの森」に春の足音が

山野草園の奥の方、スギ林の地表面にひっそりと顔を出し始めたのは「セリバオウレン」です。葉がセリの葉によく似ていることから名付けられました。北国では、菊の葉に似ている種類があり、「オウレン」と呼び、区別しています。

飯南町でも古くから漢方薬として親しまれてきました。昔は需要もあったため、林業の副業としてオウレンを植えた歴史があります。小さくかわいらしい花が素敵ですよ。

セリバオウレン

続いて春と言えば、やっぱり「マンサク」。ふるさとの森に咲いているのは、「アテツマンサク」という種類です。岡山県の阿哲地方（現在の新見市周辺）で、故・牧野富太郎植物博士によって発見され、その名が付けられました。名前の由来は「たくさん咲いた年は『万年豊作』が期待できる」や、「春にまず咲く」など諸説あります。

牧野博士と言えば、今年のNHK前期の朝ドラでも取り上げられます。もしかしたらアテツマンサクが登場するかも。

最後に紹介するのは、苦手な方も多いかもしれない「ヒキガエル」。「ガマガエル」とも呼ばれていて、毎年この時期になると、セラピーロードの水辺で、たくさん顔を出します。その目的はただ一つ、産卵です。

3月下旬の暖かい日には、たくさんの鳴き声が聞こえてきます。個体差もさまざまで、おなかの色が茶色いものや、白っぽいもの、赤茶色のものまでいます。

たくさん産み落とされた卵は、やがてオタマジャクシとして孵化しますが、大人になれるのはごくわずか。鳥やイモリの餌食となってしまいます。森の植物連鎖を感じる一コマですね。

アテツマンサク

ヒキガエル

文化を感じるまちへ 飯南町文化協会

事務局（教育委員会内）☎76・3944

飯南町文化協会に加盟している団体の活動を紹介。今月は「キュイジーヌ」です。

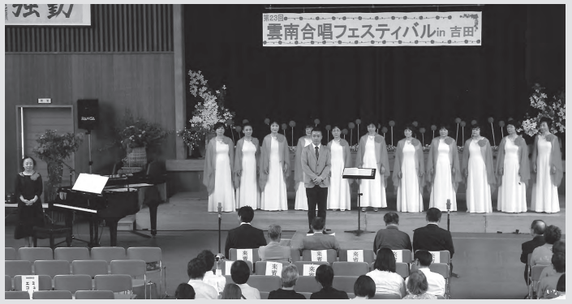
キュイジーヌは、20年以上前に創設されたコーラスグループです。

現在、メンバーは13名。火曜日の夜に、来島交流センター大ホールに集まって活動しています。初心者から合唱経験者まで、「歌が好き」「趣味として楽しみたい」「健康のために」と理由はさまざまですが、全員の気持ちが一つになり奏でるハーモニーの素晴らしさを感じながら、練習に励んでいます。

普段の練習で、指導してくれるのは、町内在住のピアニストである安部祥子先生。メンバーとして、指導者として1人2役。和やかな笑顔あふれる練習時間となるよう、長年活動を支えていただいています。また、月に1回、広島県在住の山下雅靖先生に指導を受けています。楽しい雰囲気の中に、適切で分かりやすいアドバイスをたくさんくださいます。

現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発表会などの活動は控え、練習も月2回としています。コロナが収束し、「雲南合唱フェスティバル」「文化祭」「福祉施設への訪問」などのイベントで皆さんと一緒に歌に癒され、励まされる日が早く来るようにと願っています。

「キュイジーヌ」は、フランス語で「料理」を意味します。歌を自分たちの声で作り上げ、一緒に楽しみませんか。



皆さんの加入をお待ちしています

短歌　頓原公民館短歌教室　三月詠草

この広い宇宙の星のひと隅で空中戦やら地上戦やら　安部　徳則

ひよっこは遠目の鹿に銃かまえ止まらぬふるえ初の獲物に　石川　隆

〝まだ元気〟老いの集いに行く身でも好きになれない老いという字に　岡田　繁富

「ありがとう」思いをこめて天国に書いた手紙とんどの炎に高く昇（あが）れり　景山サチ子

日捲（ひめく）りは旧正月を伝えたり磯の香りは春風にのり　景山　稔

朝まだき除雪車の音に動揺すカーテン手繰りそっと覗きし　景山　牧栄

切り株に数数伸びる柿若枝みな天を向き芽吹きの兆し　片岡　千鳥

雪蹴りに興じし頃の旧友は電話で安否尋ねきてくれ　塩田美代子

「人恋し」モンブランを一人前お茶と向合う雪積る午後　千葉トミヱ

窓少し開けると春の匂いする一杯開けると辛夷咲く見ゆ　藤原　正

雪山の木々は朝日に輝きて厳かな国に踏み入る心地　本間　啓美

大屋根の雪ずりの音けたたまし厨にすくむ単居（ひとりい）の夕　三上　朋子

青天にまいちる雪の美くしき庭木につもり眺めやわらぐ　山本　正敏

琴引の高くそびえて明らけし雲ゆうゆうとその上をゆく　烏田　勝信

今月の人権標語

「家族でつくる人権標語」
優秀作品から

あいさつは
心をひらく
とびらだよ

頓原小4年　景山　月（あかり）さん
家族名　景山　聡子さん

標語に込められた思いを町民みんなで意識し、差別や偏見のない明るいまちづくりをめざしましょう。

すこやかに　3月届出分

新生児	届出人	地区	
鉄原　結彩（ゆあ）ちゃん	悠　平	（上来島）	
石飛　希歩（きほ）ちゃん	完　多	（頓原団地）	
川口　紺（こん）ちゃん	佐藤佑介	（都加賀）	

やすらかに　3月届出分

お名前	親族	地区
田邊登紀子　様（79）	良　夫	（上赤名）
木村　英治　様（86）	英　樹	（川　西）
白石　序子　様（79）	悟	（花　栗）
礒江　靖雄　様（83）	照　美	（赤　名）
安部トシエ　様（94）	悟	（獅　子）
尾村トミヨ　様（103）	吉川恭子	（上赤名）
須山　恵治　様（64）	直　子	（野　萱）

今月の表紙

「どんな石鹸（せっけん）ができるのかな」と、わくわくドキドキの表情を浮かべる石田鈴夏（すずな）さん（上赤名）。この日は、お母さんと一緒に「宝石石鹸」を作るイベントに参加していました。

「ラメや石鹸の色を選ぶのが楽しかった。おうちで飾ってから、使ってみようかな」と鈴夏さん。完成したのは、ピンクでハート型と、オレンジでクマの形をした世界に一つの宝石石鹸でした。（P6に関連記事）